

Scoop

2000年11月

プリメーラ

日産

セダンとワゴンの2タイプに新開発2.5リットルNEO-Di搭載！

日産が今年度最後にリリースする新型車が3代目プリメーラだ。現行モデルは守りに入りすぎたためか、ワゴンを新たにラインナップしたものの、苦戦を強いられてきた。そこで、次のFMCでは思い切った路線変更が行われ、ひとクラス上の上級セダンおよびワゴンに生まれ変わる。

搭載エンジンが何よりの証拠だ。量販モデルとして2代にわたって人気を集めてきた1・8リットルエンジンはラインナップから消え、次期モデルでは2リットルと新開発2・5リットル直噴が用意される。もちろん、トランスミッションにはハイパーCVT（一部グレードにはシーケンシャルモード付のハイパーCVT-M6）を設定。ちなみに、プリメーラの上級移行で穴が開く1・8リットルクラスは、先にデビューしたブルーバードシルフィによってカバーされる。



[↑ zoom](#)

スクープ班が予想したプリメーラワゴンの確定フォルム。現行モデルの実用的なデザインから一転、大きくラウンドしたルーフラインを用いるなど、大幅に洗練される。



[↑ zoom](#)



[↑ zoom](#)

全面レッドレンズのリアコンビランプはボディ側で完結し、ハッチゲートにはナンバープレートとバックアップランプのみが設置される。

これが3代目プリメーラのノーズだ。大きく口を開いた2分割式グリルはヘッドランプよりも下方にオフセットされ、重心を低く見せているのがポイント。2.5リットルエンジン搭載でボディも3ナンバー幅か？



[↑ zoom](#)

センターメーターの存在を裏付けるナマ写真。写真ではわかりづらいが、すぐ下のセンタークラスターにはナビ画面や空調ダクトが並んでいる。



[↑ zoom](#)

4灯式ヘッドランプにはターンシグナルとポジションランプも組み込まれ、流行の“オールインワン”的なデザインに仕上がる。ランプ本体も大きそうだ。

ソフト面でも見逃せないポイントが多い。外観ではターンシグナルも組み込まれた流行のオールインワンのヘッドランプや新しい日産顔の特徴ともいえる特大2分割式グリル、そして大きくラウンドしたワゴンのルーフラインに注目したい。

一方、内装ではドライバー側に向けられたセンターメーターをエクストレイルに続いて採用。メーターにチルト機構が備わるとの未確認情報も。すぐ下のセンタークラスターにはナビ画面とピアノタッチ式のスイッチ類が並べられ、操作性もよさそう。さらにオーディオへと続くワケだが、このあたりになると奥まっついて、手探りで操作できるのか、やや心配。インパネからドアトリムへと至る連続感も演出され、包まれ感や安心感がもたらされるだろう。



[↑ zoom](#)

ワゴンのリアクォーターウィンドウ部分。ルーフラインが弧を描いて丸く下がっているのが確認できる。



[↑ zoom](#)

リアコンビランプには丸く光る部分が刻まれている。ティエノに似た丸っこいハッチゲートのウィンドウも特徴的だ。市販時には車名エンブレムも装着。



[↑ zoom](#)

セダンのリアコンビランプも3次元曲面の三角形で、左右だけでなく、上方にも回り込む。こちらバックアップランプとナンバープレートをトランクリッドに装着か。

▲ 戻る















